

## 英語 4 技能の前提は「語彙・文法・読解力」

—大学入試、英語民間試験導入延期を考える—

開倫塾

塾長 林明夫

Q：大学入試英語民間試験の導入が延期になったようですね。

A：民間試験の導入は延期になりましたが、コミュニケーションの手段としての英語学習にとって、「英語を読む、聞く、話す、書く」の 4 技能の習得の大切さは変わりありません。コミュニケーションの手段としての英語学習の本質をもっと、もっと突きつめて、どのような形で大学入試がなされようが、即対応できるだけの実力を備える英語教育を普段から行っておくべきと考えます。

Q：コミュニケーションの手段としての英語にとって大切なことは何だと考えますか。

A：(1) 英語 4 技能の前提は「語彙・文法・読解力」の 3 つだと考えます。

(2) 読んでわからないことは聞いてもわからないので、「聞くこと(リスニング)」の前提は「読解力」です。

(3) 身に着けている語彙が少なく、文法がわかっていなければ、文章を書くことは困難ですから、「語彙・文法」は「書くこと」の前提となります。

Q：英語の語彙力を身に着けるにはどうしたらよいでしょうか。

A：(1) よくわからないことばがあったら、「気持ちが悪い」と思い、辞書(英和辞典・英英辞典)で調べる。

(2) 調べた内容は「意味調べノート」か「単語カード」に書き写す。

\* その単語が出てきた文章も書き写すことがおすすめです。どのような文脈(コンテキスト)の中でその単語が用いられるかを知ることができるからです。

\* 調べた単語の「Word Family(関連する語)」も合わせてメモをしておくことも、語彙数を増やすのに役に立ちます。

(3) 1日に1～2回、意味調べノートや単語カードを1ページ目・1枚目から声を出して読み直すこと、書けなそうな語句は書き取り練習をすることも、語彙数を増やすのに役に立ちます。

(4) 開倫塾では、辞書はいつもカバンの中に入れて持ち歩き、1日に10回以上辞書を引くことを奨励しています。「1日10回、1か月で30回、1年で3650回、3年間で1万回辞書を用いて調べ、語彙数を増やそう」が、開倫塾の合言葉です。

(5)最大のポイントは、調べた単語は「音読練習」と「書き取り練習」ですべて身に着けること。その単語が出てきた文章といっしょに身に着けること。単語は文脈とともに身に着けることです。

**Q：英文法を身に着けるにはどうしたらよいでしょうか。**

A：(1)学校の教科書や学習塾で用いているテキストを、授業をよく聞いて「理解」し、授業が終了したら「音読練習」と「書き取り練習」をして、すべて身に着ける。これが一番効率的です。

(2)先生の説明や教科書・テキストの説明だけではわからなければ、少し厚めの参考書を1冊用意して、「辞書代わり」に活用することです。

(3)英文法は、1回目の学習でよくわからないことも、2回、3回、4回と何回か繰り返して学習している間に、らせん状に「理解」が深まっていくことが多いようです。一度授業を聞いてわからなくても、あきらめずに、繰り返し学び続けることをおすすめします。英文法のテキストは一生役に立つので、決して処分しないようにお願いします。

**Q：英語の読解力を身に着けるにはどうしたらよいでしょうか。**

A：(1)小学生、中学生、高校生が国語の読解力を身に着けるにはどうしたらよいかを考えるのと、全く同じです。英語の読解力を育てるためには、学校の教科書や学習塾のテキストだけでは量が完全に不足です。「質のよい文章にできるだけ多く触れること」「朝の10分間読書」「読書の習慣」などを思い出して、英語についても同じことを行う以外にありません。

(2)私のおすすめは、読売新聞を毎日ていねいに読み、その後、読売新聞の英語版「Japan News」をインターネットのHPで毎日30分～1時間読むことです。日本語でよくわかっている内容なら、英語の新聞でもさほど苦にはなりません。そして、気に入った英文記事を毎日1つ選び、辞書を用いて徹底的に精読することです。

(3)「Japan News」で力をつけたら、「The Japan Times」にも挑戦しましょう。もっと力がついてきたら、「The Japan Times」を家庭で購読し、その中に入っている「New York Times」にも挑戦を。イギリスの経済週刊誌「The Economist」や、2か月に1回発行される「Foreign Affairs」も素晴らしい教材です。今やっていることに飽き足りなくなったら、どんどんレベルを上げてください。

(4)World Bank(世界銀行)やOECDのパリ本部のHPには、洗練された標準的な英語で書かれたSDGsはじめ現代的課題に関するレポートが数多く掲載されていますので、英語の読解力を身に着けるには打って付けです。

(5)これぞという英語の本を1冊決め、1学期に1冊ずつ確実に読み込むことをおすすめします。特に、「山川出版の詳説世界史 英語版」をノートを取りながら精読することをおすすめします。教育開発の「新中学問題集数学 英語版(中1～中3)」は超おすすめです。物理や化学、生物の高校教科書の英語版も少しずつ出始めました。是非、チャレンジをお願いします。

Q：学習塾・予備校・私立学校の先生方にお伝えしたいことは何ですか。

A：(1)大学入試への英語民間試験導入の一時停止は現場を大混乱に陥れ大きな問題とは思いますが、英語4技能の重要性が変わることはありません。

(2)私は4技能の前提として「語彙・文法・読解力」が重要と考えますが、各塾や学校では独自のお考えがあると思います。

(3)改革が叫ばれるときは、ちょっとしたきっかけで制度が大きく揺れ動きますので、何があってもこれだけは貫き通すという「原理・原則」を明確にお持ちになり、教育方針として高く掲げ、教育内容におとしこむことが肝要と考えます。

Q：最後に一言どうぞ。

A：今月も、先生方がお読みになれば必ず役に立つと思われる本を、僭越とは存じますが御紹介させていただきます。

(1)1冊目は、物理学者の遠藤誉著「中国製造 2025 の衝撃」PHP 出版 2018 年 12 月 22 日刊です。5G で世界はどうなるのか、国家的見地から考える警鐘の書です。同著「米中貿易戦争の裏側」毎日新聞出版 2019 年 11 月 9 日刊ともどもお読みになると、「米中貿易戦争」のカギは「5G」にあることがよくわかります。

(2)2冊目は、慶應義塾大学法学部教授の山元一著「グローバル化時代の日本国憲法」(放送大学教材)、放送大学教育振興会 2019 年 3 月 20 日刊です。憲法改正の議論が本格化する中、グローバルな視点から、日本国憲法をどのように生かし、また、改めるべき点は何かについて本質的理解を目指す好著です。

(3)3冊目は、立松和平著「すらすら読める奥の細道」講談社 2004 年 1 月 13 日刊です。お忙しいとは存じますが、時には日本の古典を腰を落ち着けてじっくり通して読むことも面白いと思います。小西甚一著「俳句の世界―発生から現代まで―」講談社学術文庫、講談社 1995 年 1 月 10 日刊の 80 ページ余りにわたる芭蕉の紹介と並読すると、素晴らしい芭蕉理解につながります。高浜虚子著「俳句はかく解しかく味わう」岩波文庫、岩波書店 1991 年 6 月 26 日刊も、是非、御一読を。

2019 年 11 月 4 日、林明夫記